

令和4年度 県立美術館協議会 会議概要

- 1 開催日時及び場所
日時：令和4年12月12日(月) 午後1時30分から午後3時まで
場所：県立美術館3階会議室
- 2 出席者
委員7名、事務局等8名 計15名
- 3 議題
 - ① 令和3年度事業実施結果及び令和4年度事業について
 - ② 宮崎県立美術館運営ビジョンに基づく評価について
- 4 質疑応答及び協議
事務局から各議題について説明等を行った後、次のような質疑応答、協議が行われた。

【運営ビジョン評価の自己評価の内容について】

(1) 収集・保存

○委員

年に2回のモニタリングは、1回の設置で何日間しているのか。また、燻蒸の薬剤何を使用しているのか。

○事務局

モニタリングは2回で1ヶ月、1回で2週間実施している。燻蒸ではエキヒュームを使用している。エキヒュームは環境に負荷がかかるので、燻蒸庫のみで実施している。また、現在エキヒュームが高騰しているので、今後の検討が必要。

○委員：

作品を収集する際、どのような方針で作品を選び審査しているのか。

○事務局

当館の収集方針「郷土出身作家及び本県にゆかりのある作家の作品」「わが国の美術の流れを展望するにふさわしい作品」「海外の優れた作品」の3つに基づき、審査をしている。

○委員：

空調設備について、万全ではないとのことだが、令和4年度の改修工事によって全て解決するのか。

○事務局

今回の工事では冷却塔、冷温水発生器を交換した。これによりほぼ性能は上がったが、配管などは古いままなので、フルパワーではない。今後も継続して随時更新していく必要がある。

(2) 調査研究

なし

(3) 展示

○委員

コロナ禍で自主企画の瑛九展が3000人以上はかなりの努力だったと思われる。たくさんの資料が所狭しと展示されていたので、これをきちんと紀要にまとめ、さらに継続的に展示を考えてほしい。

○委員

評価について、コロナ禍の状況で、年度間目標そのものが厳しいように思われる。本来なら内部評価でAが出てても良いことでも、目標が高いことによって機械的にB、Cが出ているのでは。

○事務局

昨年の協議会でも同様の意見をいただいた。美術館としては、コロナ禍で感染対策をとりながらも楽しんでいただける活動に取り組んだ。年度初めに3年続くコロナの関係で施設を閉めるなど、物理的に目標を達成できない状況が続いている。算定方法にもあるように、一部の項目については2020年、2021年の実績値をもとに目標を下方修正している。今後も状況を見ながら、適切な目標設定を行っていきたい。

(4) 教育普及

○委員：

Facebookは定期的に更新されており、楽しげな様子がうかがえる。さらに、ワークショップに参加した方の作品がSNSに上がって、学芸員のコメントが入ると、参加者はより励みになると思う。

また、瑛九の点描の技法を小中学校の授業などで体験して、作品を作っていくような取り組みが県下で実施できないか。例えば美術館の学芸員がSNSで点描の作品を発信する、それを教室で見た生徒が作成する、その作品がホームページにあがる、美術館に展示されるなど、県民が皆瑛九を知り、誇れる画家となるような経験・体験ができる活動を期待する。

○事務局

個人情報にも配慮しながら、美術館で楽しんだ方の作品の紹介や学校と連携した瑛九に親しみを持てる体験など検討したい。

○委員

総合評価のCはコロナ禍の状況を踏まえると厳しい評価のように思われ、Bでも良いのではないかな。

○事務局

教育普及活動は、参加人数や施設の開放等が関わってくることが多いため、イベントの中止や施設の閉鎖により目標に届かないことがある。年度間目標は下方修正したが、それでも目標に届いていないことを踏まえ、今回は、基準に則り評価をお願いしたい。

(5) 広報発信について
なし

(6) 連携・参画について
なし

(7) 人材育成について
なし

(8) 管理・運営について
なし

【運営ビジョン評価】

- | | |
|-----------|------|
| (1) 収集・保存 | ・・・B |
| (2) 調査研究 | ・・・B |
| (3) 展示 | ・・・B |
| (4) 教育普及 | ・・・C |
| (5) 広報・発信 | ・・・B |
| (6) 連携・参画 | ・・・B |
| (7) 人材育成 | ・・・B |
| (8) 管理・運営 | ・・・B |

【協議、意見交換等】

○委員

調査研究について、7名の作家の情報収集・調査をしたということだが、これは令和3年度に限ったものなのか。調査対象の決め方と継続性について教えていただきたい。

○事務局

調査対象は、作品の所有者やご遺族などから申し出があったものに対して調査を行っている。年度またいで継続することもある。

瑛九、太佐豊春、塩月桃甫などはコレクションの関連で研究は継続している。細かく拾うと7件以上あるが、ある程度調べたことをまとめ直したり、深めたり、活用の度合いを考慮して7件を挙げている。

○委員

職員の異動があつて、作品に関するデータは蓄積されていると思うが、継続性が厳しいと思われるので、課題として今後も取り組んでほしい。

○委員

収集に関して、円安で購入が厳しい状況にあるが、調査研究に裏付けされた攻めの姿勢で収集をお願いしたい。

○委員

具体的に県立美術館はどういう事業を企画し、実施して評価を得ていくのかということを期待している。素晴らしい展覧会を持ってきたらお客さんがたくさん入ってくる。そういうことを年次的に計画していくことを具体的に目指してほしい。県内に普及活動をするためには、小・中・高等学校の教員の初任者研修を美術館で行うべきである。

○委員補足意見

モニタリングは、進入生物やその経路を確認するため調査するとその後の対処に方針が決めやすい。年間２回だと季節的な生物のライフサイクルに追いついていかない恐れがあるので、年間を通した持続的な調査を検討してほしい。

エキヒューム（酸化エチレン）は現段階で最善の選択であり、医療機関でも使われていると聞く。環境面、費用面で使用ガスを減らすなら、覆いこみ燻蒸もあるのではないかと。また、文化財虫菌害研究所では残留性のある噴霧による薬剤を燻蒸ではないとしているので薬剤変更の際は留意が必要。